

Title	第四十五巻自第七号至第十二号総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.12 (1952. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19521201-0073">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19521201-0073</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

第四十五卷

自第七號  
至第十二號

總目次

(昭和二十七年下半年)

論 說

東南アジア經濟開發問題に關する一考察	山本登	七一	四七
絶對消費の圖式とその具體化	辻村江太郎	七七	四七
地主層の構成	小池基之	八一	五一
資本主義技術の史的構造	野口祐	八三	五五
改革後の自作農の性格	島崎隆夫	九一	五九
國際收支の所得分析とJ・E・ミード	白石孝	九元	六〇
動的貸借對照表の構成	高橋吉之助	九三	六三
具體的消費函數の發達について	鈴木諒一	一〇一	六一
「バシレイア」と古ゲルマンの「グランドヘルシャフト」の異同性について	宇尾野久	一〇三	六一
協同組合配給の本質とその限界	鈴木保良	一一一	五五
「小農論」批判の一視點	常盤政治	一二元	六六
メシア思想の起源と發展	平井新	一三	八五
均衡豫算の乗數効果に關する理論の現實的妥當性	高木壽一	一三元	八三

資 料

馬場辰猪小傳(上)	西田長壽	七四	四九
-----------	------	----	----

米國南部の經濟に對するT.V.Aの影響	飯島瑞子	七五	四四
日本林業發達史序説	服部謙太郎	八	五五
馬場辰猪小傳(下)	西田長壽	八	五三
鐵道運賃の性格に就ての論争(一)	増井健一	九	六四
作業職能と人間關係(其の一)	關口操	七	四七
作業職能と人間關係(其の二)	關口操	七	四三

書評・紹介

クープマンズ編「動態的經濟模型に關する統計的研究」	小尾惠一郎	八	五九
G.D.H.コール「社會主義經濟學」、W.アーサー・ルイス「經濟計畫の原理」	加藤寛	九	五二
G.テイントナー「エコノメトリクス」	辻村江太郎	十	五五
フリードリヒ・ルッツ夫妻著「企業投資の理論」	鈴木諒一	十二	八〇
メッツラー「レオンチェフの投入―産出模型に於ける租税と補助金」	福岡正夫	十二	八六
W.シュタルク「經濟思想の根底に在る諸理想」	服部成三郎	十三	八二

論文紹介

A.ボッシュウ「第十五世紀における國家の觀念とパリー最高法院の判決」	渡邊國廣	七	五七
エドワード・レ・カツェンバツハ「戦時における自由主義者―國防政府(一八七〇年―一八七一年)の經濟政策」	渡邊國廣	七	五八
M.M.ポスタン「伊太利と中世英國の經濟發展」	渡邊國廣	九	五七
ロバート・D.レイター「廣告、資源配分及び雇傭」	片岡一郎	十	五二
ヘルマン・S.ヘッティンガー「ペルシヤにおける配給」	片岡一郎	十	五三

ワトレン・C.スコヴィル「少數者の移住と技術の普及」	渡邊國廣	十二	八〇
ヴァレリ・モラン「第十六世紀のメードストーンに對する亡命新教徒の定住」	渡邊國廣	十二	八二
W.H.ホスフォード「第十七世紀の圍牆に關する一目撃者の報告」	濟邊國廣	十二	八三
ヘンリーH.ヴェア「ソヴィエット國內商業における配給費」	片岡一郎	十三	八二